

07

阪南大学と取り組む文化財を活かした地域づくり 2014

企画1の実施

「せんなん戎畑遺跡のタコ壺をつくる」



【企画1】せんなん戎畑遺跡のタコ壺をつくる

企画1は「泉南市＝世界的なタコ壺のまち」であることを知ってもらうためのプログラム。タコ壺漁と地域との歴史的なかかわりについて説明を受けた後、タコ壺づくりを各自で行います。「生涯学習の場（まいぶんクラブ）」と、「学校教育の場（出張授業）」で実施しました。

ここでは、事業に参加する住民が楽しんでいる様子も、積極的に公開したかったので、報道機関へのリリースを5/20に実施。結果複数の媒体で取り上げていただくことができました。

■企画実施日と参加人数（のべ518名を対象に実施）

生涯学習の場での実施

まいぶんクラブ「タコツボをつくる」 5/9 参加者20名

学校教育の場での実施（すべて6年生）

雄信小学校（35名） 5/19・6/19（先生役3名）

西信達小学校（79名） 5/21（先生役3名）

樽井小学校（106名） 5/26・6/25（先生役5名）

一丘小学校（72名） 6/15・7/6（先生役8名）

*（先生役）はプロジェクトメンバーが先生役として参加した人数

■報道機関などの紹介

日経新聞（5/27夕刊）、信濃毎日新聞（6/2夕刊）、中日新聞（5/31朝刊）、中国新聞（6/4朝刊）、京都新聞（6/4朝刊）、産経新聞（5/29朝刊）、毎日新聞（6/9朝刊）、「MBSちんぷいぷい」（6/19放送）

【結果報告】皆さんの笑顔が全国で紹介！

まずは理由を聞いて、そのあとタコ壺づくり

参加者は、「泉南市が世界的なタコ壺のまち」である理由について説明を受けます。市内では戎畑遺跡など世界的にも珍しいタコ壺づくりの村が発掘調査でみつまっていること、しかも卑弥呼が生まれるまえ（弥生時代）から現在までタコ壺漁を続けていることなど、結構難しい内容も。タコ壺をつくるだけではありません。

八割が納得「泉南市は世界的なタコ壺のまち」

小学校には、プロジェクトメンバーが「先生役」として児童たちと一緒にタコ壺づくりを実施。児童や先生たちと一緒にタコ壺づくりを楽しみました。小

学校での出張授業のアンケートをみると、各校とも参加した児童の八割以上は「世界的なタコ壺のまち」だと納得してもらえたよう



です。また小学校によっては8割以上の児童が「そのことを誰かに教えてみようと思う」と答えています。「まちの誇り」として感じてくれたようです。

各地で紹介されたこのプロジェクト

その様子は、新聞7紙で紹介され、テレビ番組では25分程の枠で紹介されました。プロジェクトを楽しむ笑顔も、広く発信することができたはず

はたして「世界的なタコ壺のまち」だとわかってもらったのか？
小学校で実施した出張授業のアンケートより

	【質問】「泉南市は、世界的なタコ壺のまち」だと思いましたか？		【質問】「泉南市が世界的なタコ壺のまち」だと誰かに教えてみようと思いますか？	
	思う	思わない どちらでもない	思う	思わない どちらでもない
樽井小学校	81%	19%	71%	29%
西信達小学校	87%	13%	87%	13%
雄信小学校	86%	14%	86%	14%
一丘小学校	76%	24%	41%	59%
平均	83%	17%	71%	29%



なぜそこまで?のタコ壺づくり

テレビ番組の中継当日、タコ壺の野焼きをしたのですが…前日の雨で地面がぬれていたためか、温度が上がらずまさかの失敗。結構難しい作業です。おかげで「ここまでしてタコをとる訳は？」と昔の暮らし方を考えるきっかけになりました。